

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	73人	算数	73人	理科	75人
第5学年	国語	62人	算数	62人	理科	64人

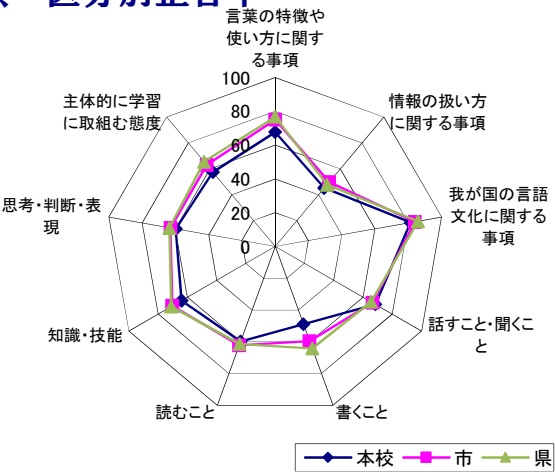
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.7	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	45.2	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	81.4	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	68.6	66.5	65.5
	書くこと	48.9	59.6	64.2
	読むこと	59.8	62.2	61.5
観点	知識・技能	63.9	70.2	71.1
	思考・判断・表現	59.8	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	57.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

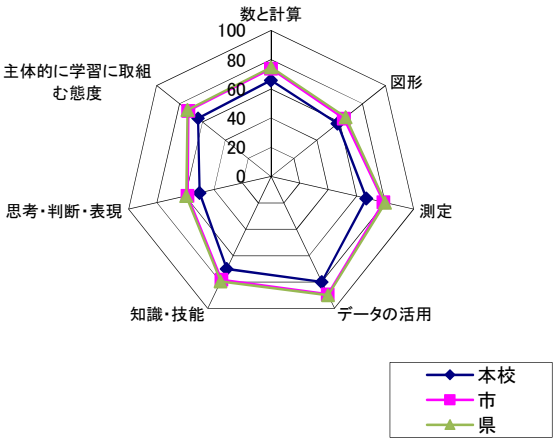
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は67.7%で市の平均を7.4ポイント下回った。 ●漢字の書き、主語、述語、国語辞典の使い方などに課題が見られた。特に、漢字の書きは無回答が多く、正答率がほぼ50%である。	・普段の漢字の小テスト等の点数が関連しているので、苦手としている児童に対して漢字の習得をAIDリル等を活用したり、話しながら書く練習をさせたりするなどして丁寧に行う。 ・国語辞典を廊下や教室の後ろなど、いつでも使える環境を整え、国語辞典を日常的に使う機会を増やすようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は45.2%で市の平均を4.4ポイント下回った。 ○中心語句や文を見付けて要約する問題は市の平均より4ポイント低く、話し手が伝えたいことを捉える問題は、市の平均より1.4ポイント高かった。 ●情報と情報の関係について理解し、話し手が伝えたいことを捉える問題では、誤答が60%で課題が見られた。	・資料をもとに、まとめる作業を増やしたり、説明文の問題の中で、同じや違うといった資料相互の関係を見取るなど、資料や情報を適切に処理できるよう、授業の中で意識的に取り入れていく。 ・資料を見比べる際のポイント等を、授業で伝えることで、資料相互の関係の読み取り方を繰り返し行う。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は81.4%で市の平均を2.6ポイント下回った。 ●我が国の言語文化にに関する事項に関しては、市の平均よりやや低かった。 ●漢字のへんやつくりに関して、漢字の習得を苦手としている児童に課題が見られた。	・新出漢字のときに、漢字のへんやつくりを色分けなどをして、児童に視覚的に分かりやすく提示し、習得させるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は68.6%で市の平均を2.1ポイント上回った。 ○話し手の内容を聞き取る問題は、市の平均より高い傾向にあり、調べ方について話し合う問題はやや高い傾向が見られ、概ねできている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることに関しては、市の平均を少し下回り課題が見られた。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、ペアやグループ活動の機会が減っているため、授業の中で1人1台端末を活用するなどして、話し合い活動の機会を意識的に増やしていく。 ・誰もが話し合いに参加できるよう、話し合い活動の前には、必ず自分の考えをもつ時間を設けるようにする。
書くこと	平均正答率は48.9%で市の平均を10.7ポイント下回った。 ●問題が解き終わらず無回答になってしまった児童も28.6%見られ、また、条件通りに書けなかった児童も多く課題が見られた。	・お礼の手紙や作文など、自分の考えを書く活動を意図的に取り入れ、書く時の条件や字数制限などを指定して、簡潔に書くことや詳しく書くことなどの機会を増やす。
読むこと	平均正答率は59.8%で市の平均を2.4ポイント下回った。 ○叙述を基に内容を読み取ることに関しては、市の平均よりやや高い傾向にあった。 ●登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題は、市の平均を7.9%下回り、課題が見られた。	・登場人物の気持ちを、考える際にしっかりと叙述を基にして考え、憶測で考えないように練習する機会を意図的に増やす。 ・中心となる語や文を見つけて、要約する作業を意図的に取り入れる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.9	73.8	74.8
	図形	58.3	63.7	65.3
	測定	66.9	78.9	80.1
	データの活用	80.0	89.3	90.0
観点	知識・技能	70.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	50.2	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	63.9	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

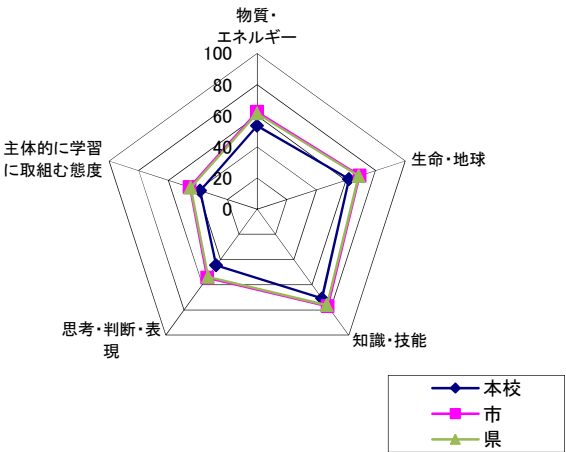
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は65.9%で、市の平均を7.9ポイント下回っている。 ○3桁+3桁=4桁の繰り上がりのある計算や、同分母の真分数+真分数=真分数の計算について、正答率が90%以上できている。 ●整数-小数第一位の計算や2桁×2桁=4桁の計算の理解に課題が見られる。	・基本的な和・差・積・商の計算の復習を行う必要がある。 特にかけ算の九九を完璧にするために、百マス計算などを繰り返し行ったり、AIドリルで既習事項の復習を行ったりする。 ・筆算において、繰り上がった数や桁がずれてしまう計算のミスをなくすために、ノートのマス目に合わせてきれいに書くように指導を徹底する。
図形	平均正答率は58.3%で、市の平均を5.4ポイント下回っている。 ○二等辺三角形の作図について、正答率が87.1%と概ね理解できている。 ●ボールの数や箱の長さから、ボールの半径を求める応用問題に課題が見られる。	・ボールなどの具体物や模型などを使って、円や球における直径や半径などの言葉の意味や関係の理解を促す。 ・分かっている数字や求める長さなどがよく分かるように、問題場面の提示の仕方を工夫する。 ・作業時間を十分確保したり、友達と学び合う学習形態をとったりするなど、さわる、動かす、測るなどの活動を大切にして指導する。
測定	平均正答率は66.9%で、市の平均を12ポイント下回っている。 ○地図上の道のりの読み取りや、はかりの目盛りの読み方について、概ね理解できている。 ●単位の変換を必要とする問題や、二つの時刻の間の時間を求める応用問題に課題が見られる。	・時刻や時間、何分後や何分前などについて、他教科や日常生活で活用が図れるようにする場を設け、正確に読み取れるようにする。 ・具体物の操作を取り入れて、実際に測る活動や場面を視覚的に捉えさせることで、問題場面の把握ができるようにする。
データの活用	平均正答率は80%で、市の平均を9.3ポイント下回っている。 ○棒グラフの特徴や目盛りの読み方について、概ね理解できている。 ●問題に合った情報を棒グラフから読み取ったり、複数の棒グラフを比較して答えを求めたりする応用問題に課題が見られる。	・文章問題を考えるときに、わかっていること、わからないこと、求めることを明確にするために、問題に線を引く、声に出して読む、確認して書き出すなどの指導を繰り返し行う。 ・説明する問題への対応として、筋道を立ててよく考えたことを表現できるようにするために、授業での書く場面を継続的に取り入れ、根気よく取り組ませる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.5	62.5	61.5
	生命・地球	62.1	69.2	68.6
観点	知識・技能	70.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	44.7	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	38.5	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は53.5%で、市の平均より9ポイント下回っている。 ○風やゴムのはたらきでは、車の動き方が、風の向きや強さによって決まることを概ね理解できている。 ○音のせいしつでは、大きい音が出るときにはふるえ方が大きいことを概ね理解できている。 ●物の重さでは、種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかを資料から考えることに課題が見られる。 ●じしゃくのせいしつでは、方位磁石の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述する問題に課題が見られる。	・市の平均と比較すると、全体的に低いいため、実験やその結果を理解するだけでなく、単元の終わりに新聞などにまとめたり、練習問題に取り組みせたりして、定着を図るようにする。 ・実験の結果を理解しているかを問う問題は、全体として理解している割合が高いが、資料を用いて考えたり、自分の考えを記述したりする問題に課題があるため、実験の結果から考察したり、理由を考えたりする力を伸ばしたい。そのために、実験・観察した結果から分かったことを個人で考えるだけでなく、友達の考えと比較したり、全体で発表したり、自分たちの言葉で説明したりするようにしていく。
生命・地球	平均正答率は62.1%で、市の平均より7.1ポイント下回っている。 ○身近なしぜんのかんさつでは、生物にはそれぞれの性質に合ったすみかがあることを9割の児童が理解している。 ○太陽と地面の様子では、棒温度計のめもりの読み方を概ね理解できている。 ●植物の育ち方では、植物の育つ順と草丈の関係の理解に課題がある。 ●昆虫の体のつくりについての理解に課題がある。	・市の平均と比較すると、全体的に低いいため、実験やその結果を理解するだけでなく、単元の終わりに新聞などにまとめたり、練習問題に取り組みせたりして、定着を図るようにする。 ・植物の育ちと草丈の関係を理解させるために、観察シートを積み重ねていくだけでなく、草丈や花の数など数値化できるものをグラフにまとめ、長期的な変化の様子が捉えやすいようにする。 ・昆虫や植物の体のつくりについては、観察をするだけでなく、いくつかの昆虫や植物のつくりを比較させ、説明や考察をさせることで定着を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で勉強するときにだいたい同じ時こくに取り組むようにしている」の肯定的回答は68.5%で、市の平均を8.3ポイント上回っている。宿題や自主学習を行うことを決めて取り組ませ、また家庭学習のやり方についても指導しているため、習慣が図られていると思われる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の肯定的回答は84.2%で、市の平均を5.5ポイント上回っている。また「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答は82.9%で市の平均を1.5ポイント上回っている。全体での発表の仕方を工夫したり、グループでの発表を取り入れたりしながら考えをアウトプットする機会を授業でなるべく取り入れ、定着を図った結果と思われる。これからはさらに、発表することで自分の考えをメタ認知したり、友達の発表を聞いて考えを広げたりすることができるようにしたい。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」の肯定的回答は85.7%で、市の平均を3.7ポイント上回る。これからも児童自身でよりよい生活を送るための公平な意思決定の場を設けていきたい。

○「だれにでも思いやりの心をもってせっている」の肯定的回答は90%で、市の平均を1.8ポイント上回っている。これからも授業や生活の中で児童同士をつなぐ役割を、教師が丁寧に行い、誰にでも思いやりの心をもちながら活動ができるようにしていきたい。

●「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は51.5%で市の平均を7%下回る。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の肯定的回答は51.5%で市の平均を13.3ポイント下回る。学んだことを定着させるため、宿題や自主学習で、復習ややり直しをする学習の仕方を指導していきたい。

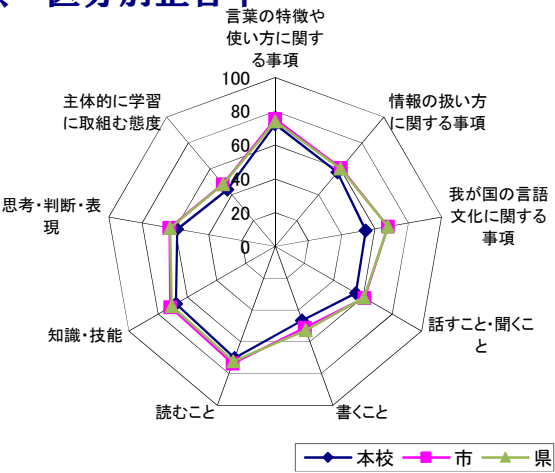
●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」の回答では、1時間以上読書をする児童は市の平均より上回っているが、一方で「全くしない」と回答した児童が25.7%となり、市の平均よりも6.5ポイント下回っており、読書をする児童としない児童の二極化になっている。読書のよさや、おすすめの本の紹介などを行い、子供たちが本を読むことの楽しさを味わえるような取組を行ったり、読書の時間を意図的に設けて、本にふれる機会をもてるようにしたい。

●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定的回答は61.4%で、市の平均を6.3ポイント下回る。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定的回答は48.6%で、市の平均を10.5ポイント下回っている。1人1台端末は学習に使うという意識をもたせ、不思議だな、知りたいなと思ったことを授業の中でもすぐに調べるなど、目的をもって適切に使えるようにしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.3	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	57.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	54.4	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	55.1	61.0	60.7
	書くこと	46.5	51.2	52.8
	読むこと	70.2	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.8	71.7	70.6
	思考・判断・表現	58.8	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	43.9	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

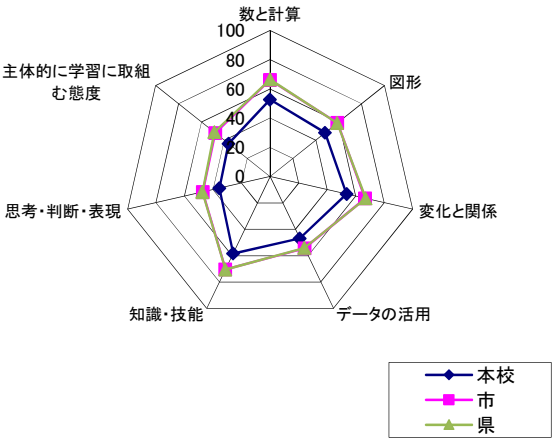
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、72.3%で、市の平均を3.1ポイント下回っている。 ○既習の漢字を読むことについては、正答率が97.6%である。 ●漢字を正しく書くことに課題が見られる。	・各教科を通して、プリントやノートの記述の際に、既習の漢字を使うようにし、漢字の使用を習慣化できるようにする。 ・漢字練習を朝の学習の時間や宿題などでノートや1人1台端末を使用しながら取り組ませるようにし、繰り返し学習し習得できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、57.3%で、市の平均を3.2ポイント下回っている。 ○中心となる語や文を見つけて要約することについては、70.2%であり、市の平均より上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話すことについて課題がある。	・説明文を読む際には、文と文をつなぐ言葉に着目して文章を読ませるようにし、資料や意見の共通点や相違点に着目できるようにするとともに、文と文との関係を理解できるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は54.4%で、市の平均を13.3ポイント下回っている。 ●ことわざの意味を知り、正しく使うことについて課題がある。	・言葉の学習の際には、実際の使用場面と結びつけながら、実感を伴った理解ができるようにする。 ・授業中に、ことわざが出てきた際には、1人1台端末を活用して、調べることににより、ことわざに親めるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率55.1%で、市の平均を5.9ポイント下回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることはできている。 ●意見の相違点に着目して考えをまとめたり、話し手が伝えたいことの中心を捉えたりすることに課題が見られる。	・発言や説明をさせる際には、例を挙げて話すこと、意見に理由も添えて話すことなど、話を分かりやすく伝える方法について指導する。 ・話し合い活動では、発言だけでなく、1人1台端末を活用し、自分の意見を述べるができるようにする。
書くこと	平均正答率は46.5%で、市の平均を4.7ポイント下回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いたり、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題がある。	・文章を決められた時間でまとめることに慣れていない児童が多いため、授業において、一定の時間で意見を書いたり要旨をまとめたりする時間を設ける。また、書く際に、行数を設定して、段落や文章の長短を調整する書き方に慣れるようにする。
読むこと	平均正答率は70.2%で、市の平均を3.5ポイント下回る。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有することについては、概ねできている。 ●登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題については、市の平均を16.9ポイント下回り、課題が見られた。	・物語文の学習の際には、登場人物の相互関係や心情を表す描写を基に考えたり、物語の構成を考えたりしながら、登場人物の思いを読み取ることができるようになる。 ・読み取った内容について、考えを記述させる時間を確保し、1人1台端末を利用しながら、話したり、書いたりすることが苦手な児童への支援を充実させる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	52.7	66.1	66.4
	図形	48.1	58.9	58.8
	変化と関係	53.7	66.6	67.0
	データの活用	46.9	54.4	54.2
観点	知識・技能	58.4	70.4	70.6
	思考・判断・表現	35.6	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	36.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

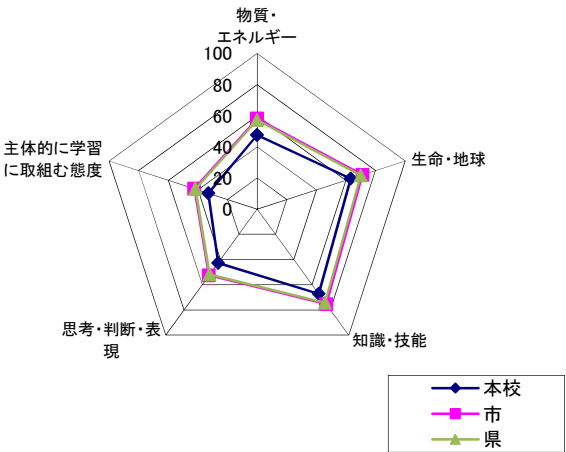
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は52.7%で、市の平均を13.4ポイント下回っている。 ○小数を10倍した数を求めることに関しては、概ね理解できている。 ●「わり算・計算のきまり」における分配法則についての理解には、課題が見られる。 ●「小数の計算」小数第2位÷整数＝小数第2位（商が純小数）の計算については、課題が見られる。	・家庭学習や朝の学習の時間を利用して、計算ドリルや1人1台端末を活用しながら、四則計算の学習を繰り返し行い、基礎基本の学力の定着を図る。 ・かけ算やわり算の学習の時間に、「計算のきまり」を取り上げ、繰り返し学習をする。
図形	平均正答率は48.1%で、市の平均を10.8ポイント下回っている。 ○分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方の理解に関しては、概ね理解できている。 ●「面積」の面積の単位の関係に関しては、課題が見られる。 ●「いろいろな形」の平行四辺形の作図に関しても課題が見られた。	・図形においては、半具体物を示し、児童が直接作図したり、操作したりという算数的活動を引き続き取り入れ、より深く理解できるようにする。 ・面積の単位の関係について、繰り返し問題を解かせることで、習熟を図るとともに、分かる喜びを味わえるようにする。 ・作図等については、ICTを活用した学習問題を与える。
変化と関係	平均正答率は53.7%で、市の平均を12.9ポイント下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題は、概ねできている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことにおいては、課題が見られる。	・問題を読み解く力が必要なので、文章問題に数多く取り組みませ、読解力を伸ばしていく。 ・特に、説明を求める問題では、無回答もあることから、自信をもって学習を進められるよう、学び合いの場を設定し、自分の考えと比較しながら、友達の考えを聞いたり、考えを確かなものにしたりするよう声掛けをし、励ましていく。
データの活用	平均正答率は46.9%で、市の平均を7.5ポイント下回っている。 ○折れ線グラフを読み取ることは、概ねできている。 ●折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題において、課題が見られる。	・グラフから読み取れるデータを自分の言葉で表現できるようにするために、繰り返し問題に取り組みませ、習熟を図る。 ・グラフから読み取ったことを説明する問題では、無回答もあることから、課題に対して、自分の考えを書いたり、根拠や具体物を示しながら、考えを話したり書いたりする演習を積んでいく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.6	58.1	57.2
	生命・地球	63.2	71.1	70.0
観点	知識・技能	67.2	75.5	74.4
	思考・判断・表現	42.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	33.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は47.6%で、市の平均を10.5ポイント下回っている。 ○電気のはたらきでは、乾電池の向きを入れかえたときに、流れる電流の向きが変わることを概ね理解できている。 ○物のあたためり方では、金属のあたためり方について概ね理解できている。 ●電気のはたらきでは、乾電池が1個のときと、乾電池が2個の直列つなぎ、並列つなぎの電流の大きさについて理解し、回路の作図をすることに課題がある。 ●水のすがたでは、物質の三態についての問題に課題がある。	・実験の結果を理解したり、覚えたりしていない児童が多かったため、理科の学習の際には、実験の内容について児童にしっかり計画を立てさせ、どんな実験からどんな結果を得ることができたのか整理する活動を通して、理解を深めていけるようにする。 ・水のすがたについての単元では、日常生活において疑問をもたせ、日々の生活にもつながっていることを意識させられるように、児童にとってより身近な場所や場면을提示しながら指導していくようにする。
生命・地球	平均正答率は63.2%で、市の平均を7.9ポイント下回っている。 ○1年間の植物の成長では、ヘチマの成長に関する問題が概ね理解できている。 ○雨水のゆくえと地面のようすでは、水の流れ方について概ね理解できている。 ●天気の様子と気温では、記録温度計の記録から、天気の変化を推測する問題に課題がある。 ●月と星では、半月の1日の動きから、どの時刻の半月かを判断する問題に課題がある。	・実験の結果からわかることや、2つのことを関連付けて記述することに課題が見られるため、実験の結果から自分の言葉で考察したり理由を考えたりする活動を通して、思考力を高めるようにする。また、自分の考えを表現する際にはICTを効果的に活用していく。 ・温度変化の読み取りなどにおけるグラフの読み取りに関しては算数の学習、月や星の動きと方角に関しては社会の学習とも関連がある。このことを児童にも理解させ、教科を超えて指導を行えるよう、教科担当の教員と担任とで連携を図りながら授業を進めていけるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定回答割合は64.4%で、市の平均を2.7ポイント上回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の肯定回答割合は78%で、市の平均を13.5ポイント上回っている。これは、家庭学習において目標時間を定め、授業で習ったことの復習やテストでまちがえた問題の勉強に自ら取り組む習慣が身に付いてきている表れと考えられる。

○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定回答割合は91.5%で市の平均を12ポイント上回っている。毎日の授業で分かったことや気付いたことを意識させ、どんな学習を行ったのか振り返ることで、その単元の内容理解をより確実なものにさせていく。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定回答割合は86.4%で、市の平均を3ポイント上回っている。また、「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定回答割合は78%で、市の平均を3.1ポイント上回っている。社会や総合的な学習の時間を好きと答えた児童の割合が市の平均よりやや高いことから、児童がこれらの学習に意欲的に取り組んでいることの表れとも考えられる。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定回答割合は45.7%で、市の平均を18ポイント下回っている。また、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定回答割合は49.1%で15.4ポイント下回る。本やインターネットは調べ学習で活用できるという意識を持たせるために、図書室の本や1人1台端末を用いて調べ学習を進めるなど、授業の中で効果的に活用したり、児童にとって身近なツールになるよう環境を整えたりしていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定回答割合は37.2%で、市の平均を11.7ポイント下回る。授業内外で1人1台端末の共同編集や画面共有を効果的に活用し、発表以外の方法でも、自分の考えを表現したり友達に伝えたりすることができたと児童が実感できる場を設定していきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定回答割合は50.8%で、市の平均を13.7ポイント下回る。係活動や当番活動を充実させて認め合うことで、児童に自己有用感を味わわせていく。また、高学年として、委員会活動など学校全体に関わる活動で、積極的に取り組めるよう支援することで、さらに自己有用感を高めていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・一人一人が考えたことを書いたり表現したりする力の育成を図る。 ・授業の中で必ず「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い、授業の焦点化を図る。	・授業の中で、めあてやてふりかえりを行っていると感じている児童は4年生では7～8割、5年生では9割である。一方、4・5年生ともに約6割の児童が、自分の考えを文章にまとめて書くことに難しさを感じている。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・話し合いや1人1台端末を活用し、多角的な見方ができるようにする。 ・振り返りを通して集団の学びを個の学びに返し、この学習を個の学習を深められるようにする。	・友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると感じている児童は、4・5年生とも約7割いるが、グループでの話し合いに自分から進んで参加していると実感している児童も4・5年生とも約7割である。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・互いに認め励まし合い、学びに向かう学級集団づくりを行う。 ・家庭学習等では、個人に適した学習を行いながら自己調整力を育む。	・家庭学習を計画的に行っている児童は4・5年生ともに6割強おり、内容は学校の宿題が最も多く、予習や復習、自分で考えた学習については5割未満である。月に3冊以上本を読む割合は、4・5年生とも7割強である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、市や県の平均よりも全体的に低い傾向が見られた。 ・「書くこと」に対する問題では、無回答の児童も少なくなかった。	・基礎基本を定着させるための取組。 ・書く力を高めるための取組。	・朝の学習の時間や各単元の内容を復習する時間に、プリントやAIDリルを活用し、基礎基本の定着を図る。また、学ぶことを既習の学習事項と結び付けるなど、知識や技能を応用させ、考える場を設けるようにする。 ・書き方の形式を示しながら書かせたり、自分の考えを書き残したりする機会を、様々な教科や場面や振り返り等を利用しながら設けるようにする。